

気をつけよう! 夏の脳梗塞

本格的な暑さを迎えるこれからの季節、熱中症とともに注意したいのが「脳梗塞」です。脳の血管障害は冬場に多いという印象があるかもしれませんが、「脳梗塞」に限ると、むしろ夏の発生率のほうが高いのです。また、近年、芸能人や有名人が若くして脳梗塞になったことが度々ニュースで報じられ、高齢者だけではなく30～50代の年齢層でも注意が必要です。

脳梗塞が夏場に多い理由

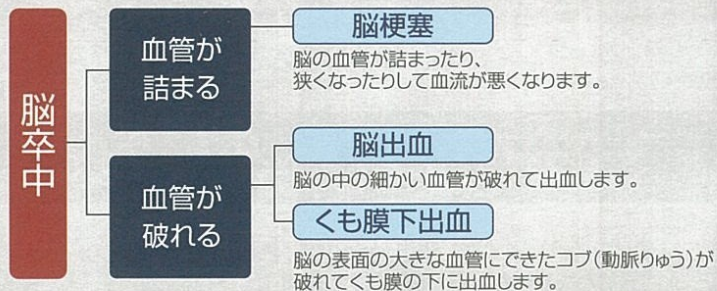
夏に脳梗塞が起こりやすい理由としてあげられるのは、脱水による体内の水分不足です。暑さや湿気で大量の汗をかいたのに十分な水分を摂らないでいると、血液の濃度が高くなってドロドロの状態になってしまいます。すると、摩擦などの刺激によって、血液を固める血小板が小さな塊をつくり、



周りの赤血球や白血球を取り込みながら血の塊(血栓)を作り出してしまうのです。

脳梗塞は脳卒中のひとつです

脳卒中(脳血管障害)は、脳の血管がつまる「**脳梗塞**」と、脳の血管が破れる「**脳出血**」、脳動脈瘤が破裂する「**くも膜下出血**」の3つに大別されます。日本の脳卒中による死亡者数は、がん、心疾患、肺炎に次いで第4位となっています(厚生労働省平成28年調べ)。



薬剤師 アドバイス

～脳梗塞の治療は時間との勝負です～

発症してから24時間は、驚くほど早く進行します。脳梗塞によって神経細胞が壊死してしまうと元には戻らず、脳性麻痺、言語障害、認知障害をはじめ、生活に支障をきたすさまざまな後遺症が残ってしまいます。前兆を感じた時の一刻も早い対策はもちろんですが、日頃からの予防が何よりも大切です。

